

令和2年度版

鳥 取 県

乳幼児健康診査マニュアル
【スタッフ用】

～ 歯科健康診査の部～



令和2年2月

鳥取県母子保健対策協議会

鳥取県健康対策協議会母子保健対策専門委員会

は　じ　め　に

このたび、「平成26年度版鳥取県乳幼児健康診査マニュアル」の
歯科健康診査の一部改訂し、令和2年度版を作成しました。

本マニュアルの作成にあたり、多大な御尽力をいただきました一般
社団法人鳥取県歯科医師会の皆様に厚く感謝申し上げます。

歯科健康診査の部

第Ⅰ章 乳幼児期の歯・口腔について・・・・・・・・・・ 1

第Ⅱ章 1歳6か月児歯科健康診査・・・・・・・・・・ 6

第Ⅲ章 3歳児歯科健康診査・・・・・・・・・・ 10

母子保健業務に使用する様式例

- ・ 1歳6か月児健康診査票・・・・・・・・・・ 15
- ・ 3歳児健康診査票・・・・・・・・・・ 17

第 I 章 乳幼児期の歯・口腔について

1 生歯と口（腔）機能の発達

一般に乳歯は生後6～8か月頃から生えはじめ、3歳頃上下20本が生えそろう、5～6歳頃から順次永久歯に生え替わる。歯の生える時期は個人差があり、まれには出生時にすでに生えている場合や、生後12か月を超えてから生え始める場合もある。

母子健康手帳の保護者の記入欄「9～10か月頃」と「1歳6か月頃」のページに生歯やむし歯など歯の異常の記録をつけるための図が載せてある。

歯のまったく生えてこない異常は極めてまれなので、多少の早い遅いがあっても、親には心配ない旨を話して差し支えない。しかし、まれに乳前歯部の癒合歯・先天性欠如とそれに関連した永久歯数の異常がみられることがある。

口（腔）の機能としては、液体を飲む（哺乳）、噛む、味わう、噛んだ食物を飲み込む、話す、表情をつくるなどが挙げられる。

新生児は、生後すぐに原始反射により、乳首をくわえて乳を飲む能力をもっている。未熟児などでこの能力が不十分な場合には、経静脈栄養や経管栄養が必要になる。

生後5か月頃までは液体を飲むだけであるが、生後5～6か月頃から原始反射の消失等を目安に、成人の食事に向かう準備として、離乳食を開始する。

生後5～6か月頃から1日1回1さじから始める。なめらかにすりつぶしたトロトロ状から始めて、ポターージュぐらいのドロドロ状の離乳食に進める。

生後7～8か月頃には、1日2回食に進み食事のリズムをつけていき、舌でつぶせる固さにする。

生後9～11か月頃には、食事のリズムを大切に1日3回食に進めていき、歯ぐきでつぶせる固さにする。

生後12～18か月頃には、1日3回の食事のリズムを大切に生活リズムを整え、歯ぐきで噛める固さに進めて、離乳を完了する。

離乳を進める上で、月齢はあくまで目安とし、食べる機能の発達程度に合わせた食形態の離乳食を与えることが、最も重要である。離乳を完了し幼児食を進めていく上でも、特に乳歯が生え揃うまでは、食べる機能の発達程度に合わせた食形態とする。

話す能力は、声帯や舌などの口腔機能の総合的な働きで可能になる。最初は母音から発音できるようになり、次第に複雑な発音が可能になっていく。

2 歯と口腔の疾患

乳幼児にみられる歯・口腔の主な疾患の一つに、むし歯がある。むし歯の特徴の一つは自然治癒のないことで、出来てしまったむし歯は、治療して痛みなどの症状をなくし、進行をとめて、欠損部を人工的に修復する以外に対策はない。

平成25年度歯科健康診査結果によると、平均で3歳児の約15.6%はむし歯をもち、5歳児では39.2%に達する。一人当たりのむし歯数は、3歳児でおよそ0.62本、5歳児では1.74本である。

H25	むし歯罹患率	一人当たりむし歯数
3歳児	15.6%	0.62本
5歳児	39.2%	1.74本

以下に母子健康手帳の健康診査の記録の欄に記入されるべき事項について略述する。

(1) むし歯

むし歯は、エナメル質に脱灰による実質欠損が認められる歯で、処置歯、未処置歯に分類する。

処置歯 (治療の完了している歯：記号○)

未処置歯 (治療する必要があると認められる歯：記号C)

(2) 歯肉炎

歯の汚れに伴って起こる歯肉の炎症のことである。歯口の清掃不良や、食生活の乱れた幼児にみられる。また、口呼吸や、まれに全身性疾患の症状として起こることもあるので注意を要する。歯口の清掃指導(保護者による仕上げみがき)ならびに食生活指導と早期治療が必要である。

(3) 不正咬合

幼児では、反対咬合、開咬、上顎前突、過蓋咬合、叢生、正中離開、切端咬合、交叉咬合等が見られる。

治療を要する場合、治療の開始時期は症状によって異なるので、矯正歯科や小児歯科を標榜する歯科医に相談することを勧めてもよい。

(4) エナメル質形成不全

歯の形成、石灰化の時期に主に全身的な影響(妊娠後期から乳幼児期の疾患や薬剤など)によってエナメル質が形成不全となったもので、歯の着色や陥凹、歯質の菲薄化、エナメル質の部分的な実質欠損が見られる。エナメル質が全く形成されない場合もある。全身的な健康管理によって健全な永久歯を期待することになるが、エナメル質形成不全の歯はむし歯になりやすく、必要に応じて歯科治療を行う。

(5) 口内炎、口角炎

これらがみられたときは、原因に応じて全身的、局所的な治療を行う。

(6) 唇裂・口蓋裂

哺乳や摂食の障がいとなるので、すでに処置(口唇形成術、口蓋形成術)されているケースが多いが、発音障がいや外見的な問題が残ることもあるので、専門医療機関での治療やケアの指導が必要である。

(7) 舌小帯異常・上唇小帯異常

舌小帯が短小で発音に障がいがある場合があるので、障がい著しい場合には治療が必要である。摂食の障がいとなることは少ない。

上唇小帯の付着異常により、唇の動きが悪くなったり、歯みがきの妨げになったりする。また、上顎中切歯の正中離開の原因となる。障がい著しい場合には治療が必要である。

3 歯科保健指導

むし歯予防ならびに歯肉炎予防が歯科保健指導の主目的となる。それは、歯口の清掃指導、フッ化物応用指導と食生活指導に要約される。

(1) 歯口の清掃指導

乳幼児が自分で行う歯みがきは、大人のまねをしたがるのを利用しながら始める。乳児期で、下顎前歯のみ生えている場合には離乳食の後に白湯を一口飲ませたり、ガーゼなどで歯を軽く拭いてやる程度でよいが、上顎前歯が生えてきたら歯みがきを開始する。小学校3～4年生頃までは、自分でみがいた後に保護者が仕上げみがきをする必要がある。また、発育途上にある乳幼児は身体のバランスが悪く転倒しやすいため、事故を起こさないためには、「歯みがき中は保護者がそばに付き添い注意を払う」ことが大切である。

集団健康診査時の歯みがき指導は、歯科衛生士に依頼する。

(2) 食生活指導

ショ糖を多く含む飲食物（菓子、清涼飲料等）を摂取すると、歯垢中の細菌がショ糖を分解し酸を産生し、これが歯を侵して、むし歯となる。

ショ糖の多い飲食物は当然むし歯予防に不利であるので、乳児期から味付けを薄目にする、おやつに甘いものを控えること、時間を決めて飲食しダラダラ食いをしないこと、食後に歯みがきや口ゆすぎ（ブクブクうがい）をするなどの習慣をつけることが必要である。

また、生涯の歯科保健では、顎骨が発達し、永久歯の生えるスペースが確保されることが必要なので、よく噛んで食べる食習慣を離乳後期から心がけることが必要である。

やわらかい食物は歯につきやすく、歯を汚しやすい。しかし、肉や繊維の多い野菜などをよく噛んで食べれば食物自体による自浄作用も期待できる。

(3) むし歯予防処置

フッ化物溶液の局所的な応用（歯への塗布、年中・年長児ではフッ化物洗口法）と、シーラント（臼歯表面の小さい溝を合成樹脂で埋める方法）がある。

フッ化物は、歯質を強化する作用があり、萌出間もない歯に特に有効である。また、フッ化物配合歯磨剤との併用により、相乗効果がある。

(4) 6歳臼歯（第1大臼歯）について

<6歳臼歯の特徴>

6歳前後に生えてくる臼歯部の永久歯のことを一般的に6歳臼歯という。

6歳臼歯は、乳歯列の後方に生えてきて、上と下の歯の噛み合わせを決定する。6歳臼歯が正しい場所に生えてこないと、次に生えてくる永久歯の歯並び、顔の形、噛み合わせに悪い影響を及ぼすことがある。乳歯よりも溝が深く複雑なためむし歯になりやすい。

<6歳臼歯のみがき方>

生え始めの頃の6歳臼歯は、他の乳臼歯に比べ噛み合わせの面の位置が低いいため、みがきにくいので、みがくときは、口をやや閉じ気味にして歯ブラシを横から入れると、噛み合わせの面がみがきやすくなる。歯ブラシの毛先が届きにくい歯と歯の間は、デンタルフロス等を使用する。

子どもが一人でみがけるようになる小学校3～4年生頃までは、保護者の仕上げみがきを実施する必要がある。

(5) 歯科医療機関の受診

むし歯が発見された場合や歯肉炎の場合には、かかりつけ歯科医の治療と指導を受けることが必要である。むし歯は自然治癒がないだけでなく、幼児期にむし歯の多い子は永久歯になってからも、むし歯が多くなりがちなので、早期治療とともにむし歯予防のための指導が必要である。特に、重症のむし歯を多くかかえている幼児は、虐待やネグレクトが疑われる場合もあり、慎重な対応が必要である。また、治療後も定期的な管理が必要である。

以上のことから、母子健康手帳の保護者のためのアンケートの中には、次のような項目が用意されている。対象の乳幼児の発育、発達に合わせて、これらの意識を理解し、指導・相談に活用していただきたい。

- 離乳食を始めましたか。(離乳食を始めて1か月位したら1日2回食にし、食品の種類をふやしていきましょう。7、8か月頃から舌でつぶせる固さにします。)(6~7か月頃)
- 離乳は順調にすすんでいますか。(離乳食を1日3回食にし、9か月頃から歯ぐきでつぶせる固さにします。)(9~10か月頃)
- 歯の生え方、形、色、歯肉などについて、気になることがありますか。(9~10か月頃)
- 1日3回の食事のリズムがつかえましたか。(食欲をなくさぬよう、また、むし歯予防のために、砂糖の多い飲食物を控えましょう。)(1歳の頃)
- 歯みがきの練習をはじめていますか。(1歳の頃)
- 自分でコップを持って水を飲めますか。(1歳6か月の頃)
- 哺乳ビンを使っていますか。(いつまでも哺乳ビンを使って飲むのは、むし歯につながるおそれがあるので、やめるようにしましょう。)(1歳6か月の頃)
- 食事や間食(おやつ)の時間はだいたい決まっていますか。(1歳6か月の頃)
- 歯の仕上げみがきをしてあげていますか。(1歳6か月の頃)
- 歯にフッ化物(フッ素)の塗布やフッ素入り歯磨きの使用をしていますか。(1歳6か月の頃)
- スプーンを使って自分で食べますか。(2歳の頃)
- 肉や繊維のある野菜を食べますか。(2歳の頃)
- 歯の仕上げみがきをしてあげていますか。(2歳の頃)
- 歯みがきや手洗いをしていますか。(3歳の頃)
- 歯の仕上げみがきをしてあげていますか。(3歳の頃)
- いつも指しゃぶりをしていますか。(3歳の頃)
- よくかんで食べる習慣はありますか。(3歳の頃)
- かみ合わせや歯並びで気になることがありますか。(3歳の頃)
- 歯にフッ化物(フッ素)の塗布やフッ素入り歯磨きの使用をしていますか。(3歳の頃)
- 歯みがき、口ゆすぎ(ぶくぶくうがい)手洗いををしますか。(4歳の頃)
- 歯の仕上げみがきをしてあげていますか。(4歳の頃)
- いつも指しゃぶりをしていますか。(4歳の頃)
- 食べ物の好き嫌いがありますか。(4歳の頃)
- 家族と一緒に食事を食べていますか。(5歳の頃)
- 歯の仕上げみがきをしてあげていますか。(5歳の頃)
- いつも指しゃぶりをしていますか。(5歳の頃)
- 第一大臼歯(乳歯列の奥に生える永久歯)は生えましたか。(6歳の頃)
- 歯の仕上げみがきをしてあげていますか。(6歳の頃)
- 朝食を毎日食べますか。(6歳の頃)

(母子健康手帳より)

第Ⅱ章 1歳6か月児歯科健康診査

1歳6か月児の心身発育の状態から幼児に恐怖心を起こさせないために、対象児を保護者が対象児の頭部を胸に付けて抱いて固定し、向き合って診査するか、または、対象児を仰臥させて保護者が手を添えて手足などを固定し、診査者が頭部を保持して診査するかのいずれかの位置で行うとよい。

診査は口腔内が明視できるように、十分な明るさのもとで行う。

歯鏡は必ず用意し（1人に2本使用する場合もある）、必要に応じて探針、ピンセット等を用意する。

1 1歳6か月児歯科健康診査所見・歯科健康診査票記入要領

(1) 歯式の欄

主に視診によって歯の状態を診査し、記入記号を用いて、歯式の該当欄に該当記号を記入する。

○現在歯〔斜線／又は横線—〕歯の一部でも萌出している場合は現在歯とする。

○むし歯 エナメル質に脱灰による実質欠損が認められる歯。

〔C〕 軽度のむし歯 C₁～C₂程度

〔Ch〕 進行したむし歯 C₃～C₄程度

○要観察歯〔CO〕明らかなむし歯ではないが、むし歯の初期病変の徴候（白濁、白斑、褐色斑）が認められ、保護者に知らせるとともに経過観察を行うのが適当と思われる歯。COは統計上、健全歯とする。

○処置歯〔O〕充填、補綴によって歯の機能を営むことができると認められる歯。

（治療中の歯、処置歯であるが再発等によって処置が必要な歯は含まない。）

○癒合歯〔=〕本来は2本別々の歯が癒合している歯。現在歯数は一本とする。

歯種名は、上位歯種名とする。

○形成不全〔P〕歯の形成、石灰化の時期に全身的な影響によってエナメル質が形成不全となった歯。

(2) 歯垢の付着状態

上顎乳中切歯、上顎乳側切歯の4前歯唇面の歯垢の付着状態を診査し、ない場合は〔きれい〕に、4前歯唇面の1/3以下の場合は〔少ない〕に、それ以上の場合は〔多い〕に○をする。最も多い部分の状態を記入する。

(3) むし歯の罹患型

問診及び歯垢の付着状態とどの部位にむし歯（処置歯を含む）が存在するかによって、次のむし歯の罹患型に分類し、該当するむし歯の罹患型を○で囲む。現在歯数・処置歯数・未処置歯数は、本数を数えて記入する。

・O₁型 むし歯がなく、かつ口腔環境がよいと認められる者。歯垢の付着状態は良好で、間食や飲物についても良い習慣の者。

- ・ O₂型 むし歯はないが、口腔環境が不良のため、近い将来にむし歯発生の懸念がある者。(歯垢の付着状態が不良な者、不規則な間食の習慣等、生活習慣上むし歯の発生が懸念される者。)
- ・ A型 上顎前歯部のみ、または臼歯部のみむし歯のある者。
- ・ B型 臼歯部及び上顎前歯部にむし歯のある者。
- ・ C型 下顎前歯部にむし歯のある者。
- ・ 現在歯数 現在萌出している歯の合計数。
- ・ 未処置歯数 むし歯 (C/C h) の合計数。(C Oの歯は未処置歯には数えない)
- ・ 処置歯数 処置を完了している歯の合計数。

(4) 咬合の異常 (歯列不正・咬合異常)

歯列不正、咬合異常を診査し、〔なし〕・〔あり〕のいずれかを○で囲む。

〔あり〕の場合、該当する病名を○で囲み、その他の異常は空欄に病名を記入する。

(5) 軟組織の異常 (軟組織の疾病・異常)

歯肉、舌、口腔粘膜、小帯等、口腔軟組織について診査し、〔なし〕・〔あり〕のいずれかを○で囲む。

〔あり〕の場合、該当する病名を○で囲み、その他の異常は空欄に病名を記入する。

(6) その他の異常

むし歯以外の歯の異常、上記以外の疾病や異常について診査し、〔なし〕・〔あり〕のいずれかを○で囲む。

〔あり〕の場合、該当する病名を○で囲み、その他の異常は空欄に病名を記入する。

(7) 指しゃぶり

指しゃぶりについて診査し、〔なし〕・〔あり〕のいずれかを○で囲む。

(8) まとめ

問診やむし歯の罹患型等の結果により、該当事項を○で囲む。

〔問題なし〕 むし歯がなく、その他の健康診査項目すべてが〔なし〕に該当する者。

〔要指導〕 問診項目で、(11) (13) (14) が〔はい〕、(12) (15) (18) が〔いいえ〕、(17) が〔2〕または〔3〕、歯垢の付着状態の欄が〔少ない〕または〔多い〕、むし歯の罹患型がO₂に、一つでも該当する者。

なお、厚生労働省が示す健やか親子21の指標として、乳幼児健康診査での必須問診項目のうち歯科の項目である、下記の2または3または4に該当する者も同様とする。

保護者が、毎	1 仕上げ磨きをしている(子どもが磨いた	問題なし
--------	----------------------	------

日、仕上げ磨きをしていますか	後、保護者が仕上げ磨きをしている)	
	2子どもが自分で磨かずに、保護者だけで磨いている	要指導
	3子どもだけで磨いている	要指導
	4子どもも保護者もみがいていない	要指導

〔要経過観察〕 歯式の欄に（C O）（O）と記録された者、あるいは咬合の異常・軟組織の異常・その他の異常の欄が〔あり〕に該当し、経過観察を必要とする者。

〔要治療〕 歯式の欄に（C）（Ch）と記録された者。あるいは咬合の異常・軟組織の異常・その他の異常の欄が〔あり〕に該当し、かかりつけ歯科医への受診を必要とする者。または現在治療中の者。

※要治療の者は、（ ）内の「要受診」または「治療中」のどちらかを○で囲む。

2 歯科保健指導

幼児の口腔の発育・発達に応じて、むし歯予防と健全な永久歯列の育成を目指して指導する。

（1）一般的事項

この時期の幼児の歯科保健指導で共通な点は次のとおりである。

- ① 保護者は、幼児の口の中及び歯の状態を毎日見るようにする。異常を発見したらすぐにかかりつけ歯科医に相談する。
- ② 砂糖分の過剰摂取をひかえ、甘い飲食物は時刻を決めて与えるようにして、規則正しい食習慣をつけるようにする。間食に何をあげるかなど、口の中の環境に配慮する。
- ③ 子どもの歯の清掃方法を知り、歯をきれいに保つことに心がける。食べた後は歯を清掃するように努め、毎晩、保護者が仕上げみがきをしてから寝る習慣をつける。
- ④ フッ化物応用として、フッ化物歯面塗布を受ける。また、家庭では、フッ化物配合歯磨剤を使用する。

（2）むし歯の罹患型に基づく指導

質問事項、歯垢の付着状態、むし歯の罹患状況を参考に、次のような保健指導を行う。

罹患型	予後の予測	指導事項
O ₁ 型	比較的むし歯にかかりにくいと思われる。	○ 現在は、よい状態にあるので現状を続けるように指導する。 ○ 一般的事項は守るように指導する。
O ₂ 型	むし歯発生の可能性が高いと思われる。	○ 一般的事項を徹底するように指導する。必要に応じて歯の清掃方法を指導する。 ○ なるべく6か月以内に再度検査を受けるように指導す

		る。
A型	このままではむし歯が広がる可能性がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○ かかりつけ歯科医院でむし歯進行阻止の処置、またはむし歯の治療をするように指導する。 ○ 一般的事項を徹底するように指導する。必要に応じて歯の清掃方法を指導する。 ○ 哺乳ビンを常用していれば使用をやめるように指導する。
B型	むし歯が広がる可能性が高い。	<ul style="list-style-type: none"> ○ かかりつけ歯科医院でむし歯の治療をするように指導する。 ○ 一般事項を徹底するように指導する。甘い飲食物の摂取は十分注意するように指示する。必要に応じて歯の清掃方法を指導する。 ○ 虐待・ネグレクト等がないか、慎重に対応する。
C型	むし歯が次々に広がる可能性が極めて高い。	<ul style="list-style-type: none"> ○ かかりつけ歯科医院で可能な限りむし歯の治療をするように指導する。全身的背景がある場合には、小児科に相談することを指導する。 ○ 一般的事項を徹底するように指導する。甘い飲食物の摂取は十分注意するように指導する。必要に応じて歯の清掃方法を指導する。 ○ 虐待・ネグレクト等がないか、慎重に対応する。

(3) 口腔軟組織の疾患異常のある者

全身的背景が疑われる者は、小児科に相談するよう指導する。

局所的な疾病でただちに処置が必要なもの（歯垢の付着—歯肉炎等）は適切な指導を行うか、またはかかりつけ歯科医院を受診するよう指導する。

(4) 指しゃぶり、不正咬合のある者

この時期の幼児で、指しゃぶりによる不正咬合がある者は、3歳頃を目安にやめられるように指導する。この時期の不正咬合は、治療の時期についての判断が難しいことがあるので、小児科医や矯正歯科の専門医に相談するよう指導する。

(5) 歯の問題

O₂型の者は、2歳前後に口腔内診査を受け、必要に応じて、3歳までの間、健康診査と指導を受けるとよい。

この年齢でむし歯のある者（A～C型の者）は、今後もむし歯の発生するリスクが高いため、かかりつけ歯科医院で処置を受けたのちも、3歳児健康診査までの間、定期的な健康診査と保健指導を受けることが望ましい。

第三章 3歳児歯科健康診査

乳歯は、発達過程の乳幼児の咀嚼や発音の育成のみならず、健全な永久歯列、正常な咬合の育成にも欠かせない。そこで、歯科健康診査は口腔内の診査のみならず、顎顔面の発育状態等についても診査する。

今までの乳幼児歯科健康診査、1歳6か月歯科健康診査との連携に留意して行う。特にむし歯の増加が懸念される時期であるので、1歳6か月児の時点で危険因子と判定されたものの改善状況及びその効果を確認する。また、問診項目にも留意し、むし歯等の危険因子の状況、口呼吸や指しゃぶり、舌癖にも考慮して診査する。

姿勢については、幼児を立たせ保護者に頭部を固定させて、対面する。

診査は口腔内が明視できるように、十分な明るさのもとで行う。

歯鏡は必ず用意し（1人に2本使用する場合もある）、必要に応じて探針、ピンセット等を用意する。

1 3歳児歯科健康診査所見・健康診査票記入要領

(1) 歯式の欄

主に視診によって歯の状態を診査し、記入記号を用いて、歯式の該当欄に該当記号を記入する。

○現在歯〔斜線／又は横線—〕歯の一部でも萌出している場合は現在歯とする。

○むし歯 エナメル質に脱灰による実質欠損が認められる歯。

〔C〕 軽度のむし歯 C₁～C₂程度

〔Ch〕 進行したむし歯 C₃～C₄程度

○要観察歯〔CO〕明らかなむし歯ではないが、むし歯の初期病変の徴候（白濁、白斑、褐色斑）が認められ、保護者に知らせるとともに経過観察を行うのが適当と思われる歯。COは統計上、健全歯とする。

○処置歯〔O〕充填、補綴によって歯の機能を営むことができると認められる歯。

（治療中の歯、処置歯であるが再発等によって処置が必要な歯は含まない。）

○癒合歯〔=〕本来は2本別々の歯が癒合している歯。現在歯数は一本とする。

歯種名は、上位歯種名とする。

○形成不全〔P〕歯の形成、石灰化の時期に全身的な影響によってエナメル質が形成不全となった歯。

(2) 歯垢の付着状態

全歯唇面の歯垢の付着状態を診査し、ない場合は〔きれい〕に、全歯唇面の1/3以下の場合は〔少ない〕に、それ以上の場合は〔多い〕に○をする。最も多い部分の状態を記入する。

(3) むし歯の罹患型

問診及び歯垢の付着状態とどの部位にむし歯(処置歯を含む)が存在するかによって、次のむし歯の罹患型に分類し、該当するむし歯の罹患型を○で囲む。現在歯数・処置歯数・未処置歯数は、本数を数えて記入する。

- ・O型 むし歯がない者。
- ・A型 上顎前歯部のみ、または臼歯部のみむし歯のある者。
- ・B型 臼歯部及び上顎前歯部にむし歯のある者。
- ・C₁型 下顎前歯部のみむし歯がある者。
- ・C₂型 下顎前歯部を含む他の部位にむし歯のある者。
- ・現在歯数 現在萌出している歯の合計数。
- ・未処置歯数 むし歯(C/C_h)の合計数。(COの歯は未処置歯には数えない)
- ・処置歯数 処置を完了している歯の合計数。

(4) 咬合の異常(歯列不正・咬合異常)

歯列不正、咬合異常を診査し、[なし]・[あり]のいずれかを○で囲む。

[あり]の場合、該当する病名を○で囲み、その他の異常は空欄に病名を記入する。

(5) 軟組織の異常(軟組織の疾病・異常)

歯肉、舌、口腔粘膜、小帯等、口腔軟組織について診査し、[なし]・[あり]のいずれかを○で囲む。

[あり]の場合、該当する病名を○で囲み、その他の異常は空欄に病名を記入する。

(6) その他の異常

むし歯以外の歯の異常、上記以外の疾病や異常について診査し、[なし]・[あり]のいずれかを○で囲む。

[あり]の場合、該当する病名を○で囲み、その他の異常は空欄に病名を記入する。

(7) 指しゃぶり・口呼吸・その他の習癖

指しゃぶり・口呼吸・その他習癖について診査し、それぞれ[なし]・[あり]のいずれかを○で囲む。また、その他の習癖があれば、その他()に記入する。

(8) 両親の歯・口の状況

親子のよい歯のコンクールの対象者を選別するための欄で、(まとめ)欄が(問題なし)に該当する者のみに尋ねる。

[なし] むし歯なし、または、処置歯が少なく、歯列・咬合が良好な者。

[あり] むし歯、処置歯が多数ある者。または、歯列・咬合が不正な者。

(9) まとめ

問診やむし歯の罹患型等の結果により、該当事項を○で囲む。

[問題なし] むし歯がなく、その他の健康診査項目すべてが[なし]に該当する者。

〔要指導〕 問診項目で、(11) (17) (18) が〔はい〕、(12) (13) (15) (19) が〔いいえ〕、(16) が〔2〕または〔3〕、歯垢の付着状態の欄が〔少ない〕または〔多い〕に、一つでも該当する者。

〔要経過観察〕 歯式の欄に (C O) (○) と記録された者、あるいは咬合の異常・軟組織の異常・その他の異常・指しゃぶり・口呼吸・その他習癖の欄が〔あり〕に該当し、経過観察を必要とする者。

〔要治療〕 歯式の欄に (C) (C h) と記録された者。あるいは咬合の異常・軟組織の異常・その他の異常・指しゃぶり・口呼吸・その他習癖の欄が〔あり〕に該当し、かかりつけ歯科医への受診を必要とする者。

または現在治療中の者。

※要治療の者は、() 内の「要受診」または「治療中」のどちらかを○で囲む。

2 歯科保健指導

幼児の口腔の発育・発達に応じて、むし歯予防と健全な永久歯列の育成をめざして指導する。

(1) 一般的事項

この時期の幼児の歯科保健指導で共通な点は次のとおりである。

① 食生活

- 好き嫌いなく固いものでも食べられるようにする。
- 時間を決めて食べる習慣を定着する。
- 甘味飲食物に注意し、多く食べないようにする。
- 夕食後就寝までは、なるべく飲食しないようにする。

② 歯の清掃

- 歯ブラシで毎食後歯をみがく習慣を身につける。(生活習慣の中に歯みがきを定着するようにする。)
- 子どもがみがいた後、保護者が仕上げみがきを行う。
- 保護者は仕上げみがきの際に子どもの口の中を観察し、異常を見つけたら早くかかりつけ歯科医に相談する。
- 子どもが自分できれいにみがくことを少しずつ練習する。就学までにできるだけ自分できれいにみがけることを目標に練習する。
- デンタルフロス等を用いて隣接面の清掃を行う。
- フッ化物応用として、フッ化物歯面塗布を受ける。また、家庭では、フッ化物配合歯磨剤を使用する。

③ 定期的健康診査の受診

3歳以降には、乳臼歯のむし歯が多く発生する。また、就学前に第一大臼歯が萌出する幼児も少なくない。健全な永久歯列、正常な咬合の育成のためには、3歳児

健康診査以降、就学时健康診断までの間に各自で少なくとも年1～2回は、かかりつけ歯科医に歯や口の状態を診査してもらい、必要に応じて予防処置等を受けるように指導する。

④ よくない習癖の排除

現在不正咬合はなくても、強度の指しゃぶりや口呼吸など、放置すると正常な永久歯列の形成の妨げになる場合がある。これらの習癖のある場合には、家庭では注意してよくない習癖を取り除くように指導する。

(2) むし歯の罹患型に基づく指導

質問事項、歯垢の付着状態、むし歯の罹患状況を参考に、次のような保健指導を行う。

罹患型	予後の予測	指導事項
○型	比較的むし歯にかかりにくいと思われる。	○ 現在は、よい状態にあるので現状を続けるように指導する。 ○ 一般的事項は守るように指導する。
A型	このままではむし歯が広がる可能性がある。	○ かかりつけ歯科医院でむし歯の治療をするように指導する。 ○ 一般的事項を徹底するように指導する。必要に応じて歯の清掃方法を指導する。 ○ 哺乳ビンを常用していれば使用をやめるように指導する。
B型	将来C ₂ 型に移行する可能性が高い。	○ かかりつけ歯科医院でむし歯の治療をするように指導する。 ○ 一般事項を徹底するように指導する。甘い飲食物の摂取は十分注意するように指導する。必要に応じて歯の清掃方法を指導する。 ○ 虐待・ネグレクト等がないか、慎重に対応する。
C ₁ 型	比較的軽度である。	○ かかりつけ歯科医院でむし歯の治療をするように指導する。 ○ 一般的事項を徹底するように指導する。
C ₂ 型	むし歯が急速に広がる可能性が高く、永久歯列にも影響する。	○ かかりつけ歯科医院で可能な限りむし歯の治療をするように指導する。全身的背景がある場合は、小児科医に相談することを指導する。 ○ 一般的事項を徹底するよう指導する。甘い飲食物の摂取は十分注意するよう指導する。必要に応じて歯の清掃方法を指導する。 ○ 虐待・ネグレクト等がないか、慎重に対応する。

(3) 口腔軟組織の疾病異常がある者

全身的背景が疑われる者は、小児科医に相談するよう指導する。

局所的な疾病でただちに処置が必要なもの（歯垢の付着—歯肉炎等）は、適切な指導を行うか、またはかかりつけ歯科医院を受診するよう指導する。

(4) 歯列不正、不正咬合のある者

幼児の歯列不正や不正咬合は、治療を要する場合、治療の開始時期は症状によって異なるので、矯正歯科や小児歯科を標榜する歯科医に相談するよう指導する。

健診日: 令和 年 月 日
(満 1歳 か月)

1歳6か月児健康診査票

No. _____

この枠内の項目を記入の上、健診を受けてください。

お子さんの健康状態を知るためのものです。あてはまる番号に○印を、()内には文字・数字を記入してください。

フリガナ		生年月日	年 月 日生	整理番号						
幼児氏名		性別	男・女	保護者名	父					
(第 子)					母					
住 所	電話番号(- -)			アンケート記入者						
	日中の連絡先(- -)			1	2	3	4	5		
			父		母		祖父 祖母 ()			
1. 同居の家族について記入してください。		1. 父 2. 母 3. 兄・姉()歳 4. 弟・妹()歳 5. 祖父 6. 祖母 B. 他()								
2. おもにお子さんをみている方はどなたですか。		1. 母 2. 父 3. 祖母 4. 祖父 5. ()保育所 B. 他()								
3. これまで病気やけがで入院したことがありますか。		1. いいえ 2. はい()								
4. 治療中や経過をみてもらっている病気やけががありますか。		1. いいえ 2. はい()								
5. 現在、食物アレルギーで指導や治療を受けていますか。		1. いいえ 2. はい(卵白・卵黄・大豆・牛乳・小麦・魚介類・他)								
6. ひきつけたことがありますか。		1. いいえ 2. 熱があつて(回) 3. 熱がなくて(回) 4. 泣いていて(回)								
7. 予防接種は受けましたか。		1. いいえ 2. はい		1. ヒブ 2. 肺炎球菌 3. 三種混合 4. ポリオ		5. 四種混合 6. BCG 7. 麻しん・風しん 8. 水痘		A. 不明		
8. 聴力・視力・目つきについて心配したことがありますか。		1. いいえ 2. はい(何を:)								
9. 歩き方について心配がありますか。		1. いいえ 2. はい								
10. 困ったせがありますか。		1. いいえ 2. はい(具体的に:)								
11. 食事に関して何か心配がありますか。		1. いいえ 2. はい(偏食・少食・むら食い・他)								
12. おやつ回数、量を決めていますか。		1. はい(回・内容:) 2. いいえ 3. ほとんど食べない								
13. 母乳を与えていますか。		1. いいえ 2. はい(たまに・ときどき・毎日)								
14. 哺乳ビンを使っていますか。		1. いいえ 2. はい(たまに・ときどき・毎日)								
15. 自分でコップを持って水を飲めますか。		1. はい 2. いいえ								
16. 排便のしつけを始めていますか。		1. はい 2. いいえ								
17. 歯磨きは大人が毎日仕上げをしていますか。		1. はい 2. ときどきしている 3. していない								
18. 歯にフッ化物の塗布やフッ素入り歯磨き剤の使用をしていますか。		1. はい 2. いいえ								
19. 朝おきる時間と夜やすむ時間をかいてください。		1. ()時頃起きる 2. ()時頃やすむ								
20. テレビ・ビデオ(DVD・ゲーム)は1日どのくらいみえていますか。		1. みせていない 2. みせている(時間/日)								
21. お子さんの今の状態について、おたずねします。										
① 走りますか。(小走りで5メートルくらい)		② 10センチほどの高さ(段)を手をつないで上がれますか。								
(1. はい 2. いいえ 3. わからない)		(1. はい 2. いいえ 3. わからない)								
③ まねして積み木やブロックを重ねますか。		④ 自分でスプーンを使って食べますか。								
(1. はい 2. いいえ 3. わからない)		(1. はい 2. いいえ 3. わからない)								
⑤ 動物や乗り物など簡単な絵本を読んでもらうことを好みますか。		⑥ 家族が片づけなどをしていると一緒に物をとったりしてくれますか。								
(1. はい 2. いいえ 3. わからない)		(1. はい 2. いいえ 3. わからない)								
⑦ きょうだいや子ども同士で遊びますか。		⑧ マンマ、ブーブー、パパなど意味のあることばをいいますか。								
(1. はい 2. いいえ 3. わからない)		(1. はい 2. いいえ 3. わからない)								
⑨ 絵本をみて、動物、植物、日常のものなどの名前をいいますか。		⑩ 「絵本を持ってきて」などの簡単な指示を実行しますか。								
(1. はい 2. いいえ 3. わからない)		(1. はい 2. いいえ 3. わからない)								
⑪ 「〇〇ちゃんのお耳はどれ？」など尋ねて、耳、目、口を指示しますか。		⑫ 犬や車を見た時「ワンワンどこ?」「ブーブーどこ?」などとたずねると指さしますか。								
(1. はい 2. いいえ 3. わからない)		(1. はい 2. いいえ 3. わからない)								
⑬ 絵や写真で「ワンワンどれ?」などとたずねると指さしますか。		⑭ 目と目を合わせてお話ができますか。								
(1. はい 2. いいえ 3. わからない)		(1. はい 2. いいえ 3. わからない)								
⑮ 名前を呼ばれたら振り返りますか。		⑯ 家族が、痛がったりした時、その人の顔を心配そうに見ることがありますか。								
(1. はい 2. いいえ 3. わからない)		(1. はい 2. いいえ 3. わからない)								
⑰ 何かに興味を持った時、指さしをして伝えようとしますか。		(1. はい 2. いいえ 3. わからない)								
(1. はい 2. いいえ 3. わからない)										
22. 育児をしていてストレスに感じることや悩むことがよくありますか。		1. はい 2. ときどきある 3. ない								
(どんなことですか)										
23. 育児について相談したり、話したりする人はいますか。		1. はい(配偶者・配偶者の父母・実父母・友人・かかりつけの小児科医・保育士・保健師・他) 2. いいえ								
24. 保護者同士等集まったり話したりする場やサークルに参加していますか。		1. はい 2. いいえ								
25. 育児をするうえで家族や保健師・地域に支援してほしいことがありますか。		1. いいえ 2. はい								
(配偶者の育児参加・育児の仲間づくり・他)										
26. 保護者の身体や心の調子はいかがですか。		1. だいたいよい 2. あまりよくない 3. よくない (どのように:)								
27. 今日相談したいこと、心配なことがありますか。		1. いいえ 2. はい()								
栄養指導		保健指導								
栄養士()		保健師()								

21

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

栄養指導：有 ・ 無

幼児氏名 _____ No. _____

(問診聴取：父 母 祖父 祖母 他)

問 診

- 1. 運動発達 1. 首すわり(か月) 2. 四つばい(か月) 3. 歩行開始(か月) A不明
- 2. 乳児健診での指導事項 0. なし 1. 未受診 2. あり() A不明
- 3. こ と ば 1. 有意語なし 2. 有意語1~3つ 3. 有意語4つ以上 4. 2語文可 5. 指示理解困難 A不明
- 4. 既 往 歴 0. なし 1. 麻疹 2. 風疹 3. 水痘 4. 流行性耳下腺炎 5. 百日咳 A不明
- 6. 突発性発疹 7. 喘息 8. アトピー B. 他()
- 5. 生活習慣等の状況 0. なし 1. くせ() 2. 食生活(時間、偏食、おやつ、母乳、哺乳ビン、他)
- 3. しつけ(排便、歯みがき、就寝、他) 4. 環境(友達、TV、他)
- 5. 行動(かんしゃくがひどい、人見知りが強い、人見知りがない、迷子になりやすい) A不明
- 6. 「子育てをしている時“育てにくさ”を感じたことはありましたか」
- 1. いつもそう思う 2. 時々そう思う 3. ほとんどそう思わない

問診のまとめ

保健師:

計 測

(平成22年度調査)

	(97%)	90%	男	10%	(3%)	(97%)	90%	女	10%	(3%)
体重(kg)	1歳6か月	(12.47)	11.73	9.18	(8.70)	(11.77)	11.08	8.55	(8.05)	
	7か月	(12.71)	11.95	9.35	(8.86)	(11.99)	11.28	8.71	(8.20)	
	8か月	(12.96)	12.17	9.52	(9.03)	(12.21)	11.49	8.86	(8.34)	
身長(cm)	1歳6か月	(85.9)	84.2	77.2	(75.6)	(84.2)	82.7	75.6	(73.9)	
	7か月	(86.9)	85.1	78.1	(76.5)	(85.3)	83.7	76.5	(74.8)	
	8か月	(87.9)	86.1	78.9	(77.3)	(86.3)	84.7	77.4	(75.7)	
頭囲(cm)	1歳6か月	(50.3)	49.4	45.8	(44.9)	(49.0)	48.2	44.7	(43.8)	
	7か月	(50.5)	49.6	45.9	(45.0)	(49.1)	48.4	44.8	(44.0)	
	8か月	(50.6)	49.8	46.1	(45.2)	(49.3)	48.5	45.0	(44.1)	
胸囲(cm)	1歳6か月	(51.5)	50.2	45.2	(44.2)	(50.1)	48.8	43.8	(42.8)	
	7か月	(51.8)	50.4	45.4	(44.4)	(50.4)	49.0	44.0	(43.0)	
	8か月	(52.0)	50.6	45.6	(44.6)	(50.6)	49.3	44.2	(43.2)	

健診結果

- 1. 異常なし 2. 既医療(観察中・治療中) 3. 要経過観察 4. 要精密 5. 要治療
- (どこで) (紹介先・内容)

診 察

- 1. 栄 養 ・ 身 体 ふつつ (ふとりすぎ⁶⁰⁸・やせすぎ⁶⁰⁷・小柄⁶⁰⁶・便秘・他)
- 2. 行 動 ・ 受 診 態 度 ふつつ (多動²⁰⁹・無関心²¹⁰・奇声²¹²・怖がる²¹¹・視線が合いにくい²¹¹・寡動・他)
- 3. 言 語 ふつつ (遅滞²⁰⁸・理解困難・他)
- 4. 頭 ・ 顔 ・ 口 ふつつ (貧血⁴⁰¹・大頭¹⁰¹・小頭⁶¹⁹・斜頸・他)
- 5. 胸 ・ 腹 ・ 外 性 器 ふつつ (心雑音⁶⁰¹ / VI(部位:)・肝腫大(⁶⁰³ cm)・胸郭異常(ロート胸¹⁰⁹・はと胸・他)
- ヘルニア(臍・そけい)¹¹¹・脾腫(¹³⁴ cm)・乳房腫大・他)
- 6. 皮 膚 ふつつ (湿疹⁶⁰⁹・アトピー¹²³・血管腫(莓状・他)・部位)・カフェオーレ斑(1cm²×6コ以上)¹²⁴・他)
- 7. 眼 ・ 耳 ふつつ (斜視¹⁰⁵・眼振¹⁰⁸・難聴¹⁰⁴・眼瞼下垂¹⁰⁶・他)
- 8. 四 肢 ・ 運 動 機 能 ふつつ (O脚¹¹⁶・X脚¹¹⁷・内反足¹¹⁸・麻痺²⁰³・遅滞²⁰⁴・他)
- 9. ま と め ふつつ (身体上の留意点¹³⁷・発達上の留意点²⁰⁴・保育環境上の留意点³⁰⁵)

医療機関名及び医師名:

健診結果

歯 科

まとめ

- 1. 問題なし 2. 要指導 3. 要経過観察 4. 要治療(要受診・治療中)

E	D	C	B	A	A	B	C	D	E		
E	D	C	B	A	A	B	C	D	E		

歯垢の付着状態 1. きれい 2. 少ない 3. 多い フッ素塗布 1. 済 2. 未

むし歯の罹患型 1. O₁ 2. O₂ 3. A 4. B 5. C

生歯数()本 (未処置歯 本、処置歯 本)

咬合の異常 1. なし 2. あり その他()

反対咬合、開咬、上顎前突、過蓋咬合、叢生、正中離開、切端咬合、交差咬合

軟組織の異常 1. なし 2. あり その他()

歯肉炎、小帯、ヘルペス発疹、口角炎、口唇炎、舌炎、齶口瘡、腫脹、潰瘍

その他の異常 1. なし 2. あり その他()

過剰歯、癒合歯、形成不全歯、外傷歯、唇裂・口蓋裂、歯石、乳歯早期脱落

指しゃぶり 1. なし 2. あり

指導事項

<記入記号>
 現在歯 / 処置歯 ○
 要観察歯 CO 癒合歯 =
 形成不全 P
 むし歯 C (軽度むし歯)
 Ch (進行したむし歯)

歯科衛生士:

歯科医師:

問診

- 1. 乳児健診での指摘事項 0. なし 1. 未受診 2. あり() A不明
2. 1歳6か月児健診での指導事項 0. なし 1. 未受診 2. あり() A不明
3. 既往歴 0. なし 1. 麻疹 2. 風疹 3. 水痘 4. 流行性耳下腺炎 5. 百日咳 6. 突発性発疹 7. 喘息 8. アトピー B. 他() A不明
4. ことば生活習慣等の状況 1. N 2. 有意語未 3. 単語5個以上 4. 2語文可 5. 会話が成立しない 6. 発音不明瞭 0. なし 1. くせ() 2. 食生活(時間、偏食、おやつ、母乳、哺乳ビン、他) 3. しつけ(排便、歯みがき、就寝、他) 4. 環境(友達、TV、他) A不明
5. 今日は誰とどこへ来ましたか 1. 理解できる 2. できない 3. やってこない
6. 「子育てをしている時“育てにくさ”を感じたことはありましたか」 1. いつもそう思う 2. 時々そう思う 3. ほとんどそう思わない A不明
問診のまとめ 0. ふつう
保健師:

検尿

尿糖 (1-・2±・3+) 尿蛋白 (1-・2±・3+) 尿潜血 (1-・2±・3+)

視力検査

1. N 2. 特記事項

耳に関するアンケート

1. N 2. 特記事項

計測

(平成22年度調査)

Table with columns for gender (男/女), age groups (3歳~3歳6か月, 3歳6か月~4歳), and measurements (体重, 身長, 頭囲) with corresponding values and percentages.

健診結果

1. 異常なし 2. 既医療(観察中・治療中) 3. 要経過観察 4. 要精密 5. 要治療 (どこで) 紹介先・内容()

診察

- 1. 栄養・身体 □ふつう □(ふとりすぎ・やせすぎ・小柄・便秘・他)
2. 行動・受診態度 □ふつう □(多動・無関心・奇声・怖がる・視線が合いにくい・寡動・他)
3. 言語 □ふつう □(遅滞・理解困難・構音障害・どもる・他)
4. 頭・顔・口 □ふつう □(貧血・大頭・小頭・斜頸・他)
5. 胸・腹・外性器 □ふつう □(心雑音 /VI(部位:)・肝腫大(cm)・胸郭異常(ロート胸・はと胸・他) ヘルニア(臍・そけい)・脾腫(cm)・乳房腫大・他)
6. 皮膚 □ふつう □(湿疹・アトピー・血管腫(莓状・他)・部位)・カフェオールレ斑(1cm²×6コ以上)・他)
7. 眼 □ふつう □(斜視・眼振・眼瞼下垂・他) 眼:1.異常なし 2.既医療 3.要経過観察(か月) 4.要精密
8. 耳 □ふつう □(難聴・他) 耳:1.異常なし 2.既医療 3.要経過観察(か月) 4.要精密
9. 四肢・運動機能 □ふつう □(O脚・X脚・内反足・麻痺・遅滞・他)
10. まとめ □ふつう □(身体上の留意点・発達上の留意点・保育環境上の留意点)

医療機関名及び医師名:

歯科

まとめ 1. 問題なし 2. 要指導 3. 要経過観察 4. 要治療(要受診・治療中)

Table for dental status with columns E, D, C, B, A, A, B, C, D, E.

歯垢の付着状態 1. きれい 2. 少ない 3. 多い フッ素塗布 1. 済 2. 未
むし歯の罹患型 1. O 2. A 3. B 4. C1 5. C2
生歯数()本 (未処置歯 本、処置歯 本)
咬合の異常 1. なし 2. あり その他()
反対咬合、開咬、上顎前突、過蓋咬合、叢生、正中離開、切端咬合、交差咬合
軟組織の異常 1. なし 2. あり その他()
歯肉炎、小帯、ヘルペス発疹、口角炎、口唇炎、舌炎、齶口瘡、腫脹、潰瘍
その他の異常 1. なし 2. あり その他()
過剰歯、癒合歯、形成不全歯、外傷歯、唇裂・口蓋裂、歯石、乳歯早期脱落
指しゃぶり 1. なし 2. あり その他習癖 ()
口呼吸 1. なし 2. あり
両親の歯・口の状況 指導事項
父 1. なし 2. あり
母 1. なし 2. あり

歯科衛生士: 歯科医師:

～ 鳥取県乳幼児健康診査マニュアル発行一覧 ～

○鳥取県乳幼児健康診査マニュアル【健診医用】～概要版～：平成25年9月

○令和2年度版鳥取県乳幼児健康診査マニュアル【スタッフ用】：令和2年2月

○令和2年度版鳥取県乳幼児健康診査マニュアル【スタッフ用】～歯科健康診査の部～：令和2年2月

○鳥取県乳幼児健康診査マニュアル【健診医用】：平成27年3月



令和2年度版鳥取県乳幼児健康診査マニュアル

【スタッフ用】～歯科健康診査の部～

発行 令和2年2月

編集 鳥取県子育て・人財局家庭支援課

所在地 680-8570

鳥取市東町一丁目220番地

TEL : 0857-26-7572

FAX : 0857-26-7863

E-mail : kateishien@pref.tottori.jp

監修：一般社団法人鳥取県歯科医師会